

文月、七月です。

今月は、18歳選挙権によるはじめての参議院議員選挙が行われます。期日前投票ですでに投票を行った教え子もいるかもしれません。そんな政治の季節ですが、先に行われた英国のEU離脱の国民投票の結果とその後の市場の動揺などを見ると、政治だけでなく経済に関しても大きな転換期が来ているのかもしれません。それを的確に生徒に伝える社会科、公民科の教員の役割は大きいといえるでしょう。

とはいえ、学校では夏休み前の期末考査、成績処理など多忙な日々が続き、なかなか世の中の動向にまで関心が届かない現実もあります。

今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【1】最新活動報告

6月の活動を報告します。

【2】イベントカレンダー

年次大会の取り組み状況、部会の案内などを紹介します。

【3】授業のヒント

【1】最新活動報告

最新のニュース、6月に行われた活動などを報告します。

■夏の経済教室の受付状況です。6月28日現在

名古屋中学向け 8月4日(木) 40名

名古屋高校向け 8月5日(金) 33名

大阪中学向け 8月8日(月) 87名

大阪高校向け 8月9日(火) 61名

東京高校向け① 8月18日(木) 154名

東京高校向け② 8月19日(金) 133名

東京中学向け① 8月22日(月) 122名

東京中学向け② 8月23日(火) 91名

昨年に比べると、大阪中学向け以外はやや出足が鈍くなっているようです。まだ申し込みをされていない先生方も多いかと思しますので、周辺にお声をかけていただければと思います。

申し込みは、下記東京証券取引所HPからお願いします。

<http://www.jpx.co.jp/learning/education/school/for-teachers/index.html>

なお、証券知識普及プロジェクト発行の『レインボーニュース』31号にも案内が掲載されています。この冊子は全国の各学校に送付されていますので、ご確認いただければと思います。

■東京部会 (No. 83)を開催しました。

日時：2016年6月14日(火) 19時00分～21時30分

場所：日本大学経済学部 本館2階中会議室

参加者：12名

主な内容：

- (1) 夏の経済教室の内容の確認が石山晴美氏からありました。
また、歴史シリーズ、マイナス金利、講演、入試問題など講義や内容骨子に関する要望の確認が行われました。
- (2) 札幌部会で議論になった高校入試問題と山崎辰也先生（北見北斗高）の実践についての紹介とコメントがありました。
高校入試問題では、需要量と需要、供給量と供給の違い、設問の問題点などが指摘されました。
山崎実践に関して、「貨幣量を増やすと色々な財の価格が上がる」という経済実験は「インフレは貨幣的現象である」という命題を教えるものであるが、その理論的裏付けについて篠原代表からコメントがありました。また、関連してヘリコプターマネーに関する解説もありました。
- (3) 関連団体の動きでは、金融広報中央委員会の夏季の講座および論文の募集、野村総研の論文募集など、関連団体の情報と協力への呼びかけがおこなわれました。
- (4) 教材の検討が三本行われました。
第一は、塙枝里子先生（都府中東高）の「公共料金の経済学—市場における政府の役割を考えてみよう—」です。今回の報告では、実際に教室での実践を踏まえての改定版を提示され、検討が行われました。この教材は、さらに実践を踏まえて夏の教室で紹介してゆくことになっています。
第二は、高橋勝也先生（都立武蔵中・高）の「身近な出来事と金融政策の関係を考える」です。これは、前回報告の「景気変動や金融政策（アベノミクスと黒田緩和）を考える」の改定版です。検討では、生徒に教えるべき内容の「見える化」がさらに必要であるということで、今後も内容の検討を行ってゆくことになりました。
第三は、新井（都立小石川中等）からの「若者が投票にゆくために必要なことは？」という授業案です。これは、経済教育からアプローチする主権者教育教材開発の一環で作成されたものです。検討では、世代間格差の扱い方、負担と給付の関係に関連した国債の理解が問題になり、篠原代表からは「国債が将来世代の負担になる」という理解には誤解がある点の説明がありました。プリントのデータも取り扱いには注意が必要であるとの指摘がされました。授業案に関してはさらに実践を踏まえて改訂してゆくことになりました。
- (5) 今回の教材検討を通して、金利や市場経済の理解、財政赤字の理解など経済学の知見が教育関係者に十分に理解されていない点が指摘され、ここをいかに埋めてゆくか、新たな

課題が提起された部会となりました。 内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo084report.pdf>

■大阪部会 (No. 49)を開催しました。

日時：2016年6月25日(土) 18:00～20:00

場所：同志社大学 大阪サテライト

内容の詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka49report.pdf>

【 2 】 イベントカレンダー

*イベント予定です。

■冬の経済教室を開催します。

日時：2016年12月27日 13時00分～16時45分

場所：慶應義塾大学 三田キャンパス 東館ホール

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/keizaikyousitu/2016%20keizaikyoushitsu/2016GeoFuyukeizai.pdf>

*定例部会のお知らせです。(開催順)

■名古屋部会 (No. 7) を開催します

日時：2016年7月2日(土) 15時00分～17時00分

場所：椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟

地下鉄東山線「星ヶ丘」駅下車6番出口より左へ徒歩5分

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/Nagoya006flyer.pdf>

■東京部会 (No. 85)を開催します

日時：2016年9月3日(火) 14時00分～16時30分

場所：日本大学経済学部 本館2階中会議室(予定)

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo085flyer.pdf>

■札幌部会 (No. 16) を開催します

日時：2016年9月17日(土) 14時30分～17時00分

場所：キャリアバンクセミナールーム

札幌市中央区北5条西5丁目7 Sapporo55 ビル5階

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo016flyer.pdf>

■大阪部会 (No. 50)を開催します

日時：2016年9月24日(土) 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト(予定)

大阪市北区梅田1-12-17 梅田スクエアビルディング 17階

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka50flyer.pdf>

* 関連団体のご案内です。

・金融広報中央委員会

2016年度 先生のための金融教育セミナー (8月・東京)

8月10日(水) 高等学校・大学向け

8月18日(木) 小学校・中学校向け

会場：日本教育会館 (東京都千代田区)

<https://www.shiruporuto.jp/event/2016/16semi2/>

第13回 金融教育に関する小論文・実践報告コンクール (教員向け)

締め切り：9月30日

<http://www.ron2016.jp/>

・野村総合研究所

第11回 NRI 学生小論文コンテスト

テーマ：Share the Next Values!

「世界を変える、新たな挑戦」

高校生の部の受付：2016年7月1日(金)～9月12日(月)です。

<https://www.nri.com/jp/event/contest/gaiyo/index.html>

この小論文コンテストは、夏休みの宿題とリンクさせて活用することができます。

【 3 】 授業のヒント

■テスト結果の分析を

期末考査の季節です。

考査は生徒の到達度、理解度を示すバロメータです。生徒にとっては自分の力が点数という形で出てくる試練です。一方、教員にとっても、自分の授業がどう受け止められているかを見ることができるいいチャンスです。

採点后、答案返却をして解説をしたいと思います。その時に、生徒に簡単なアンケート

を取ることをおすすめします。

すべての問題でなくともよいのです。先生方がこれだけは確実に理解しておいてほしいと思って出題した問題に関して、正答できなかった生徒に「なぜ正答がえられなかったか」を聞くだけでよいと思います。それをやると、生徒がテスト前に準備を十分にしなかったからできなかったのか、それとも、取り組んだけれど十分に理解できなかったからなのかを識別することができます。ここから、できない原因が生徒にあるのか、それとも授業のやり方にあるのかがそこである程度わかります。誤答分析を生徒自ら行わせることと同じです。

例をあげます。新井が中学生を教えた時の例です。

経済の学習で登場する需要曲線と供給曲線のシフト問題です。期末考査後、生徒になぜできなかったかをアンケートしたところ、準備をしなかったという生徒もいましたが、縦軸と横軸の関係がわからなかった、需要と供給がどちらだったかわからなくなったから、どちらに曲線が動くか迷って反対にしてしまった。などの生徒の回答がでてきました。

ここから、グラフを扱うときには、縦軸と横軸の関係を丁寧に教える必要があること、需要曲線と供給曲線がどんな形をしているのかを理解させることが必要なこと、シフトの方向を生徒が実際に確認しながら理解させることが必要なことなどがわかります。そして、得点率だけで判断するのは違う、授業の質的判断ができました。

最近では、各学校で生徒に授業評価をやらせますが、形式的な授業評価よりもこんな簡単なアンケートの方が、よほど授業改善になるのではと思います。

ただし、授業後の評価なので、「後悔先に立たず」で、次に同じところを担当するまで時間が空いてしまい、結果がすぐに活用できないのが問題ですが、こればかりはいかんともしがたい難点です。(新井)

【 4 】 編集後記 (みみずのたはこと)

英国の国民投票の結果には驚きました。理性が感情に負けてしまったという感じです。

かつて、竹内靖雄さんは『経済倫理学のすすめ』(中公新書)という本の中で「感情から勘定へ」という名文句を吐いていました。感情を刺激するポピュリズムやナショナリズムの大声のなかで、冷静で理性的であるのは困難なことだと感じます。だからこそ、それに負けない教育の力が必要なんです。(新井)

登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

(C) Network for Economic Education ◆◇